



新年あけましておめでとうございます。

みなさんは冬休み、どのように過ごしましたか？

1月は正月に始まり、七草や鏡開きなど「1年間を健康に暮らせよう」との願いをこめた行事がたくさんあります。

24日から30日まで「全国学校給食週間」もあります。

日本の食文化や伝統的な食べ物を知らせる絶好のチャンスとして和食の献立を入れました。日本に伝わる恵みの食材をとおり、感謝の気持ちも上手に伝えていきたいと思います。



学校での食育の取り組みや成長期真っ盛りの子どもたちに役に立つ情報をお伝えします。ご家庭の話題にしていいただければ幸いです。



★★全国学校給食週間★★



第二次世界大戦後、ユニセフなどから物資の支援を受け、戦争で中断していた学校給食が再開されました。

昭和21年12月24日に給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来この日を「学校給食感謝の日」と決めました。

昭和25年度からは、冬休みと重ならないように1月24日を記念日とし24日～30日の間を「学校給食週間」としました。

給食の始まりは、明治22年までにさかのぼります。山形県鶴岡市にある小学校で弁当を持ってこられない子どもたちのために食事を提供したのが始まりです。

「おにぎり、漬物、塩鮭」だったそうです。まさに子どもたちの栄養補給が目的の食事でした。27日はこれにちなんで、粗食の給食を実施します。

※上の写真は当時の給食を再現したものです。



♡感謝の気持ちをこめて、食事のあいさつをしよう♡

給食がみなさんの目の前に届けられるまでに、たくさんの人たちの協力があります。生産者、配送の方、調理の先生、給食に関わる先生、給食委員会、給食当番があげられます。自分の目の前に給食が届いて「いただきます」というそのときまで、誰かが給食に関わっています。そのことを当たり前とは思わず、給食をいただけることに感謝をしていただきましょう。

「いただきます」

私たちが食事をする前にいう「いただきます」は、食べ物をいただくことや、収穫や調理をしてくれた人に感謝の気持ちをこめていう言葉です。また生き物にはすべての命があります。「食べる」ということは、「その命をいただくこと」です。



「ごちそうさま」

漢字では、「ご馳走さま」といいます。昔は、食材を準備するのはとても大変でした。その字のとおり、走り回って食材を集めて準備をし、お客様をもてなしていたそうです。そういったおもてなしに対する感謝の気持ちから、食事をいただいた後のあいさつの言葉となりました。

